

平成24年度 社会福祉法人長生園事業報告

平成24年末に誕生した安倍政権は、長引く円高やデフレーションによる経済の後退からの脱却や東日本大震災復興、防災対策強化等を進める為、過去にない大胆な金融緩和や積極的な公共投資、研究開発・イノベーション(新機軸)創出促進、再生可能エネルギー投資の促進、新ビジネスへのチャレンジなどの成長戦略を実行に移しつつある。緊縮財政下の再分配を重視した民主党政権から一転、産業界には期待の声が高まっているが、「財政出動」や「金融緩和」は一時的なカンフル剤であり、借金増による財政規律の崩壊も懸念される。

一方、社会保障施策では、国債発行に依存する財源体質を打開するため、負担を国民に求める消費税率アップを伴う「社会保障と税の一体改革」による安定財源確保をうたい、高齢者福祉分野では、地域包括ケアシステムの構築を目指し、在宅高齢者への切れ目ない(巡回型)各種訪問サービスや小規模多機能サービス、サービス付き高齢者住宅供給など、地域の実情に応じたサービス提供とその体制の効率化・重点化と機能強化を推進することとしている。

長生園では京都府や関係市町との連携・協力を一層密にし、地域の課題を積極的につかみ、平成24年度のグループホーム増築をスタートとし新たな施設整備に全力で取り組んできた。また、既存施設についても市町村との連携をもとで困難なケースにも対応した取り組みを強め、地域の期待に応え、社会的使命を果たすよう努力を重ねてきた。さらに、改築後12年目を迎えた長生園では老朽設備の更新も積極的に行い、ご利用者に安心して生活いただけるよう計画的に環境整備を推進してきた。

このように、平成24年度における事業執行については、更なる健全運営と新たな事業展開に向けての基盤づくりを達成する決意のもと大過なく推進することができたが、電気料金や石油の高騰、今後の施設建設に伴う多額の資金調達など留意すべき課題もみられ、経費節減や資金計画に慎重を期した。

本園の施設利用者の動向においては、平成24年度にご逝去されたご利用者様は、男性27名、女性31名、計58名であった。

次に主だった事業実績を掲げる。

○ 施設・設備関係

- グループホーム増改築工事竣工
- 第2デイサービスセンター用地取得、開発等手続き
- あんしんサポートハウス基本構想及び開発協議(継続中)
- 全館ナースコール・電話機の更新
- 全館給湯用ボイラーの更新
- 患者搬送車1台・停電対応の小型発電機2台新規購入
- 冷温配膳車・厨房給湯器更新、厨房設備改修
- 防災対策工事(中庭雨水防止壁、外周排水路壁嵩上・隣接林伐採)

○ 運営関係

- ショートステイ 2 床増床（在宅復帰訓練室の活用）
- 18 床の養護老人ホームの特別養護老人ホームへの転換協議(継続中)
- 養護老人ホーム夜間入浴サービスの開始
- デイサービスセンターご利用時間の拡大（朝 15 分、夕方 45 分）
- グループホーム増築新棟運用開始
- 訪問歯科検診及び訪問歯科診療の導入
- 長生園土砂災害避難マニュアル制定と防災訓練実施（3 回）
- 長生園緊急ショートステイ事前登録制度の制定・実施
- 研修・実習等受入
（南丹看護専門学校実習、府立医大研修医実習、聖カタリナ高校実習、市民児協福祉体験教室、園部中学校
職場体験、殿田小学校福祉体験、大学福祉コース実習、民間ヘルパー研修等）
- 職員資質向上研修実施（普通救命講習、ベッド移乗、看取り介護、メンタルヘルス、認知症
介護、痰吸引、感染症、緩和ケア、摂食嚥下障害ほか）
- 国の会計基準の見直しによる新会計基準導入（平成 25 年度より新基準）
- 評価サイクルに至った全施設の第三者評価の実施

○ その他

- 職員の表彰等（叙勲 1 名、知事表彰 1 名、全社協表彰 2 名、府社協表彰 2 名）
 - 資格取得支援（介護支援専門員実技・模擬試験、介護福祉士実技試験対策講座・模擬試験）
 - 職員の退職・採用
 - 退職者（学生除く）：職員 7 名・準職員 3 名・パート介護職員 8 名、
 - 採用者（学生除く）：職員 4 名・準職員 12 名・パート介護職員 8 名、
パート看護職員 3 名・パート営繕職員 2 名
- [障害者雇用：1 名（平成 25 年 3 月末現在計 3 名）]

以下に各運営施設並びに事業所ごとに詳細に事業実施の報告をする。

1. 法人の運営

理事会、監事会、評議員会の開催と議案

(1) 監査

平成 24 年 5 月 14 日(月) 午前 10 時 00 分より 於：長生園会議室

監査監事 3 名（川西通夫・横山義雄・大谷俊定）出席

- ・平成 23 年度の事業運営、管理状況及び本部会計、各施設会計等会計全般の
出納経理事務、決算について監査を受けた。
- ・理事会への理事の出席、議案審議状況、利用者の預かり金保管状況について
いずれも適正執行であることについて確認を受ける。

(2) 第 3 9 回評議員会

平成 2 4 年 5 月 2 6 日(土)午前 9 時 3 0 分より

於長生園会議室

議事事項

社会福祉法人長生園評議員の退任及び選任について	承認
退任理事 長野 弘・田中利男	
新任理事 谷 義治・清水 透(前任者の残任期間)	
社会福祉法人長生園施設長の任免について	承認
養護老人ホーム長生園 免施設長:蓮本伸二、任施設長:加舎孝啓	
特別養護老人ホーム長生園 免施設長:加舎孝啓、任施設長:蓮本伸二	
社会福祉法人長生園運営規程の一部変更及び重要事項説明書の一部変更について	承認
平成 2 3 年度社会福祉法人長生園事業報告について	承認
平成 2 3 年度社会福祉法人長生園全会計収支決算及び財産目録について	承認
平成 2 3 年度社会福祉法人長生園事業及び全会計収支決算監査結果報告について	承認

(3) 第 1 9 9 回理事会(監事を含む役員会)

平成 2 4 年 5 月 2 6 日(土)午前 1 1 時 0 0 分より

於長生園会議室

議事事項

上記第 3 9 回評議員会に同じ議事事項であり、審議結果はすべて承認される。

(4) 第 4 0 回評議員会

平成 2 4 年 1 1 月 2 4 日(土)午前 9 時 3 0 分より

於:長生園会議室

議事事項

社会福祉法人長生園経理規程の全部改正について	承認
社会福祉法人長生園運営規程の一部変更及び重要事項説明書の一部変更について	承認
グループホーム幸せの里増築工事にかかる資金借入について	承認
平成 2 4 年度上半期社会福祉法人長生園事業報告について	承認
平成 2 4 年度社会福祉法人長生園全会計第 1 次補正予算について	承認
金利低減のための京都銀行融資の借換について	承認

(5) 第 2 0 0 回理事会(監事を含む役員会)

平成 2 4 年 1 1 月 2 4 日(土)午前 1 1 時 0 0 分より

於:長生園会議室

議事事項

上記第 4 0 回評議員会に同じ議事事項であり、審議結果はすべて承認される。

(6) 第 4 1 回評議員会

平成 2 5 年 3 月 2 6 日(火)

午前 9 時 3 0 分より

於長生園会議室

議事事項

社会福祉法人長生園定款の一部改正について	承認
社会福祉法人長生園運営規程の一部変更及び重要事項説明書の一部変更について	承認
社会福祉法人長生園入所者預り金等管理規程の一部変更について	承認
平成24年度社会福祉法人長生園全会計第2次収支補正予算について	承認
平成25年度社会福祉法人長生園事業計画について	承認
平成25年度社会福祉法人長生園 全会計収支予算について	承認
つなぎ資金の借入について	承認
定期預金の解約について	承認
グループホーム幸せの里増築工事にかかる独立行政法人福祉医療機構資金借入について	承認

(7) 第201回理事会(監事を含む役員会)

平成25年3月26日(火) 午前11時00分より 於長生園会議室

議事事項

上記第41回評議員会に同じ議事事項であり、審議結果はすべて承認される。

2. 施設の運営

(1) 特別養護老人ホーム

今年度も本法人基本理念「和み」「尊厳」「安心」を基軸に地域に根ざし期待される施設とともに更なる利用者サービスの充実に取り組んだ。活動等については、下記の通り。

・利用(入所)状況

平成23年度	平均利用者数	244.1	比較	+2.3
平成24年度	平均利用者数	246.4		

・保険者からの入所意見書による緊急入所者状況

緊急入所理由：虐待(介護放棄、経済的) 在宅生活困難者(老々介護) 独居(近親者無)

平成23年度	南丹市	京丹波町	京都市		計
	6名	2名	1名		9名
平成24年度	南丹市	京丹波町	亀岡市	京都市	計
	3名	5名	1名	2名	11名

・退所(死亡、長期入院)状況

平成23年度	死亡	53	入院退所	6	在宅復帰	1	計	60	比較	-7
平成24年度	死亡	49	入院退所	4	在宅復帰	0	計	53		

・入院状況

平成23年度	入院者	77	比較	+6
平成24年度	入院者	83		

・短期入所者生活介護利用状況

平成23年度	総利用日数	8,638	比較	+5	1日平均	23.7	比較	±0
平成24年度	総利用日数	9,353	比較	+715	1日平均	25.7	比較	+2

・職員研修状況

(外部研修)

<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討会 ・在宅医療研究会他合同会議 ・キャラバンメイト養成研修 ・摂食・嚥下障害対応支援事業研修会 ・老人福祉施設看護職、介護職等研修 ・感染症予防リーダー研修会 ・医療・介護連携強化合同研修会 ・高齢者虐待研修会 ・介護職員等による吸引等の実施のためのフォローアップ研修

(内部研修)

月	研修名	講師	月	研修名	講師
4	看取り研修	外部講師	10	介護福祉士試験対策研修	研修委員
	介護負担軽減	理学療法士	11	普通救命講習会	外部講師
5	普通救命講習会	外部講師	12	介護福祉士試験対策研修	研修委員
6	フォローアップ研修 (たん吸引等再研修)	指導看護師	1	嚥下について	外部講師
7			普通救命講習会	外部講師	
8	普通救命講習会	外部講師	2	介護福祉士実技試験対策研修	研修委員
9	介護支援専門員試験対策研修	研修委員	3	介護福祉士実技試験対策研修	研修委員
10	感染症予防研修	予防リーダー	新規職員に対する研修は採用時に実施。		

・各階定例会議(月毎)

月	会議次第	月	会議次第
4	合同課長会議(新年度を迎えて)	10	合同課長会議(上半期の活動と課題)
5	レクリエーション委員会(合同)	11	2階 南(現状の活動と課題)
6	4階(現状の活動と課題)	12	感染予防対策委員会(合同)
7	身体拘束、虐待防止委員会(合同)	1	2階 北(現状の活動と課題)
8	3階(現状の活動と課題)	2	1階(現状の活動と課題)
9	事故防止委員会(合同)	3	合同課長会議(年間取組状況と今後の課題)

・活動状況について

上記、表の通りほぼ健全な運営活動に取り組むことができた。その中で今年度、特に保険者からの緊急入所対象者は徐々に増加傾向にある。介護保険がスタートし13年経過するところ、在宅サービスも充実してきているものの反面地域の実態が浮き彫りになってきている。その様な実態と緩和に微力ではあるが、地域ニーズに応えるため、長生園居宅支援事業所を軸とし、地域の各居宅支援事業所、地域包括支援センターと綿密な連携を図り、緊急を要する高齢者が何時でも対応ができるよう、短期入所生活介護定員数を30床から登録型緊急対応として、2床を増床し緊急利用を要する高齢者又その家族の安心とニーズに応えることができた。

・職員研修について

利用者サービスの充実、職員のスキル向上のため外部研修に積極的に参加する。又研修委員を中心とした月毎の施設内部研修を実施し、個々職員の専門性・スキルアップと資格取得にも挑戦する意欲が見られ良い結果を得ることができた。

・各階定例会議について

業務に追われる日々の中、毎月、各階定例会議を開催しサービス活動状況、現場の課題、各委員会活動状況等々を議題にあげ、利用者に対し安定したサービス提供と安心・安全な生活が送れるよう又現場、職員間等も含め抱える問題点を協議・検討し改善を図り、利用者にとって温もりのある環境と職員同士が「励まし高め合い理解し合う」働きやすい職場作りを会議を通じ再確認し内容の濃い会議を実施することができた。

・今年度全体について

全職員個別面談を通じ、現状等を確認すると全体において職員間の関係も良好である。職員全員が笑顔で前向きに業務に取り組みご家族からも「大変気持ちよく接して頂き有難うございます」と好評を得ている。

更に看取り介護に取組みを図り、看護次長、介護支援専門員、栄養士、各階介護課長の専門職にて、月曜日毎に看取り会議を行い終末を迎えようとする利用者の状態を把握し、ご家族へのアプローチ又各専門職による意見を集約したケアプランに基づき、其々に異なった形で終末を迎えようとする生命に対してのサービス内容と課題に終りは無いが、その方に合ったサービス提供を実施し、ご家族からも「最後を看取れることができました。」とお礼の言葉と信頼を得ることができた。

今後、更に利用者サービスの充実と働きやすく末永く勤められる職場作りを目指し努力していきたい。

(2) 養護老人ホーム・養護特定施設入居者生活介護（外部サービス利用型）

長生園の基本理念に基づき平成24年度も施設の健全な環境のもとで「和み」、「尊厳」、「安心」を基軸に、施設機能を最大限に活用し入所者の個別性や自主性を尊重し又その状

態に応じ特定施設入居者生活介護（介護保険サービス）を組み込み、住み慣れた環境のもと和やかな施設生活が送れるよう、施設運営の充実に努めた。

事業実施状況

入所定員の確保について、今年度、状態の低下及び在宅復帰により7名が退所され、退所に伴う新規入所者の受入について協力関係機関との連携を密に図り一般入所依頼者の受入はもとより高齢者虐待にある者や罹災による緊急受入を率先し定員確保と安定した運営に努めた。

老人保護措置費支弁基準額階級区分A階級が職員の部署異動により階級区分Bとなったが、老人保護措置費算定各種については基礎資料を提出し各種加算の取得ができた。

養護特定施設入居者生活介護（外部サービス利用型）利用状況について、月平均利用者数17名で老人保護措置費及び介護報酬等の収入も併せ健全な運営に努めた。

重度化する要介護状態の入所者に対し、必要とする介護サービス等が提供できるよう、特別養護老人ホーム長生園との連携と協力を仰ぎ重度の要介護者を受入れ頂く事により、各措置機関からの入所依頼者の方々を遅滞することなく受入対応できて、措置機関からの信頼関係と期待に応える事ができた。

施設運営に対する意識を再確認し、職員は入所者の処遇低下することなく節電・節水等・その他無駄の無い健全運用に努めた。

入所者処遇

入所者の個々のニーズを的確に把握し、その人らしい生活が送れるよう社会復帰の促進及び自立のために必要な援助を行った。要支援・要介護者に対しては、介護サービスを利用しながら支援・介護に努めた。

5～8名のユニット型自治会を形成し担当職員等と懇談会を持つことによりグループの状態にあった買物や・趣味・外出で行ってみたい所等の意見をまとめ、希望に合った活動を実施することができ、行事等への参加意欲の向上に繋がった。

入所者の日常生活の様子、各行事等の写真を、共有スペースに掲示し近親者や家族の面会時に見て頂き、より良好な関係が構築できた。

夜間入浴について、本年度9月より入所者に家庭と同じように生活リズムを崩さず睡眠をとってもらふことや、心身のリラックス効果を目的とした夜間入浴（週2回、午後6時30分～7時30分）を始め、入所者から「気持ち良かった」・「よく眠れた」等の好評を得ることができ、生活の質の向上が図れた。

感染予防について、年間を通じ居室、共用スペース等の換気、食堂・トイレ・車イス等の消毒、うがい手洗いの励行をおこない感染予防に努めてきた。

クラブ活動、レクリエーション活動、その他の諸事業を積極的に進め生活意識の向上や活力低下の防止を図った。

口腔ケアを含め生活環境の整備や身の回りの清潔に配慮したサービスに努めた。

職員の取組み

職員としての必要な知識及び技術習得のため、職場内研修の実施や職場外研修への参加

等、職員の資質向上に努めた。

日常生活全般を支援するためのサービス計画については、サービス担当者会議を通じて各入所者の個人の有する能力・状態の変化等の把握・現に抱える問題点をあきらかにし入所者の日常生活支援の安定したサービスを提供するための支援が図れた。

防災対策

法人全体にて非常災害を想定し合同の防災訓練に参加し、入所者の安全確保に努めた。

24年度利用（入所）他の状況

措置機関別入所者数

措置機関	入数	入所理由	措置機関	入数	入所理由
京都市右京福祉事務所（京北支所）	2名 (1)	虐待・施設退所	京都市洛西福祉事務所	1名	施設退所
京都市左京福祉事務所	1名	罹災緊急	京都市北福祉事務所	1名	施設退所
京都市山科福祉事務所	1名	独居			
定員50名 新規入所者数 6名 24年度 平均利用者数（月末）49.9名					

退所者数（内訳）

特別養護老人ホーム長生園入所	在宅復帰	計
4名	3名	7名

養護特定施設入居者生活介護（外部サービス利用型）利用状況（内訳）

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
7名	6名	2名	1名	1名	17名
定員50名 内（特定20名） 平成24年度 月平均利用者数17名					

協力関係医療機関（総合病院4ヶ所、精神科1ヶ所、歯科医院1ヶ所）入院者数

公立南丹病院	平成24年度 9名（月平均0.75名）
--------	---------------------

（3）ケアハウス長生園

1. 平成24年度入居率 95.3%

24年度入居者：10名			24年度退居者10名		
内 訳	南丹市	3名	内 訳	特養入所	4名
	亀岡市	1名		グループホーム	2名
	京都市	5名		自宅復帰	1名
	広島県	1名		死亡退居	3名

2. 事業実施状況

〔利用者の日常生活に対する取り組み〕

- 高齢に伴い体力低下が著しい入居者が増加傾向にあり、訪問介護の利用により、少しでも自立した生活が維持できるよう援助する中で、ケアハウスでの生活が難しいと判断した入居者については、特養でのショートステイの利用をしながら、長期入所またグループホームへの入所となった。
サークル活動については、活動内容について検討を行い、ボランティアとして講師にも来園いただき雰囲気を変えた内容で取り組むことが出来た。レクリエーションについては、計画していた内容での新しい取り組みができず、次年度に持ち越す結果となった。
- 感染予防と衛生管理については、共用部分の手すりの消毒(10月～3月)と全居室内の冷蔵庫とミニキッチンの点検・換気扇の清掃を実施した。
- 外食・買い物・行事については、行先や内容を検討し、映画鑑賞・道の駅めぐり・バイキングなど新しい企画に参加者も多く、充実した取組ができた。
- 利用者満足度調査(年2回)を実施し、入居者より良好な評価を得る事ができた。

〔職員の取り組みについて〕

- 今年度より衛生委員・感染症委員・レクリエーション委員を定め、担当者より活動内容をまとめ、実施にむけて取り組むことができた。
- 一日一回15分の会議により、情報の共有と職員の連携に努めた。
- 担当者別会議を実施し、27名の個別援助計画を作成したが、実施・記録の内容や見直しについて、計画性がなく不十分な結果となり、今後の課題として残った。
- 施設内外の研修会(OJTリーダー研修・南丹通所サービス部会・普通救命講習・職員マナー研修・看取り研修)に積極的に参加し知識の向上に努めた。

(4) グループホーム 幸せの里

グループホーム 幸せの里 定員9名

入退居者 退居者=1名(内、女性1名)

入居者=1名(内、女性1名)

平成24年度の介護報酬改定については、各サービスの報酬・基準についての見直しが行われ当グループホームにおいても、前年度より加算基準を満たしているサービス提供体制強化加算()の継続と、今回の改正にて新たに創設された介護職員処遇改善加算()を加えた。

平成24年度の国庫補助事業(南丹市介護基盤緊急整備事業)にて補助を受け、平成24年10月24日より新築棟を着工し、平成25年2月20日に無事引き渡しを受けた。又、3月7日現入居者が新築棟へ引っ越しした後、翌8日より既存棟の耐震補強工事及び改修が開始され、次年度4月20日に引き渡しを完了、以降新入居者の受入を順次行う予定である。

事業経費削減については、各職員が節電・節水に心がけた。食費等の利用者負担においても、ご利用者の家族等にも同意を得た上で値上げを行い、運営面の安定を図った。

平成 23 年度に受診した外部評価を基に作成した目標達成計画との連動を図り、以下のような評価を行った。

1) ホーム独自の理念～本年度の重点目標

「楽しみを共に見出す関係づくり」・・・職員は出来ていると思っても、認知症により記憶に残らない場合もあるので、なかなか評価に結び付ける事が難しい。個別の対応だと応じやすいが、集団の中での個々への関わり方が難しく、職員の判断で対応する事もしばしばあったが、ひと時であっても一緒に笑い楽しむ活動が行えていたため、概ね達成できた。

2) ご利用者家族の運営推進委員会への参画促進

方法等の具体的に検討や下準備が出来ず、結果実施出来なかった。次年度も引き続き立案する。

3) ご利用者毎の担当制の導入

担当者が責任を持って対応する点は利点であり、細かい内容も把握出来、ご利用者に対しても言い易い関係が保てるが、ご利用者の介護方法や支援の行い方を担当者の独断となり易く、うまく連携が図れないなど、担当制に対する効果としては、不十分という意見が多かった。

4) 家族との連携の強化

ご家族が面会の際に積極的にコミュニケーションを図り、ご利用者のケアに繋げる事が出来ている。又、ご家族の中にも、積極的に相談されたり質問されるケースも増加しつつありご家族の発信する情報量も多くなってきている。一方で、面会が少ないご家族に関しては関わりが薄い傾向にあるが、全体としては概ね達成できた。

(5) デイサービスセンター長生園

重点課題の実施状況

1) 家庭介護を支えるチームの一員としてのデイサービス

胃ろうや人工肛門など医療処置の必要な利用者や、重度の認知症、また家族の介護力に障害があり家庭生活全体に支障をきたしている利用者のケースをケアマネや行政などと協力して支援する事ができた。

家族参観を年度中に2度実施した。今年度は初めて参観して下さったご家族も増え、デイサービスの内容を知っていただくとともに、初めての家庭介護に不安を抱えていたご家族にとって、ベテラン家族の助言を聞くよい機会とすることができた。

連絡帳はご家族に充分情報が伝わるよう、丁寧な表記をした。

2) 地域との交流活性化・生活意識の向上

お花見や紅葉狩りなどで地域へ外出する事ができた。広報誌を関係機関に配布し、地域や関連機関の情報提供に努めた。

レクリエーション等の時間に編み物や戦中戦後の生活用品を持ち寄って人生の先輩として知識と技術を披露して頂くことで、生活意識の向上を図った。

3) サービスの質やサービス提供体制を担保する取り組み

毎月の業務会議の中で事故、感染症、OJT、拘束などについて委員を中心に検証した。定期的なカンファレンスにおいて介護職と看護職が個別通所介護計画を作成する事が定着している。

ご利用者(家族)満足度調査を実施し、概ねよい評価を得ている。

新採用、新配属の職員については個別指導を行いデイサービス職員としての技術向上が認められている。

なんたん通所サービス部会、ケア会議など外部研修及び内部研修にも積極的に参加し職員のスキルアップができた。

第三者評価を受診した。

4) 介護報酬の改訂に伴う事業体制の整備

利用時間を1時間延長したが、従来の利用時間も選択できる体制にしたことをご利用者、ご家族ともに負担の少ない利用状況を確認することができた。職員勤務体制の整備により安定した加算算定を保持できた。

5) 西本梅等地域デイサービスセンター事業開設への準備

土地の確保ができ、定員15名程度の規模で設計図を検討、着工に向けて各機関と調整中である。

(6) ヘルパーステーション長生園

事業実施状況

ご利用者の生活改善を図るため、ケアハウス・ヘルパーステーション・ケアマネージャー合同会議を行い、利用者の状況や必要なサービス内容、今後の介護方針等について協議を行った。

ご利用者にとってより良いサービスが提供できるようミーティングを頻繁に行うことによりヘルパー間の連絡を密にし、利用者の心身の状態把握に努めた。

ご利用者の状況や問題等情報を利用者家族等の来園時に提供し、ご家族の質問や相談に応じるよう努めた。ご家族に会えないときは連絡帳で日頃の様子を伝えた。

状態が悪くなったご利用者への朝の身支度と食堂送りの介助に対応できるよう活動時間の変更が必要。また、必要なサービスが行えるよう、利用者の重複回避やヘルパーのきめ細やかな勤務時間等の調整が必要である。

他事業所との情報交換や様々なケースの対応方法等の理解を深め介護力の向上を図るために、施設内外の研修会に参加した。

退職により職員補充を行うとともに、将来を見据えサービス提供体制の検討を行った。

(7) 社会福祉法人長生園診療所

事業実施状況

長生園診療所は、利用者を医療面から支え、又、職員の健康管理にも大きく貢献してきた。また、協力医療機関である公立南丹病院やもみじヶ丘病院からの理解と支援を得て、必要な医師の派遣をいただき、ご利用者に安心いただける良質な医療の提供ができた。(内科2名・整形外科3名・皮膚科1名・精神科2名；訪問歯科診療については医院直接診療)

ノロウイルス感染に対し消毒の徹底を行い、感染の拡大を抑えることができた。また、感染者の清拭に今年より消毒用ウェットタオル使用始める。

インフルエンザ予防接種に加え、昨年度より継続して肺炎球菌の予防接種の取組みを行った。

職員のメンタルヘルスのため、まず幹部職員の職場内研修会を実施するとともに職員面接を実施した。

看護職員の確保のため、ハローワークや求人折込、就職フェア等の機会に看護職募集の取組みを継続してきた。(パート看護師3名採用)

緊急時に備え全職員受講を目標に普通救命講習を積極的に実施した。

(8) 長生園居宅介護支援事業所

重点課題の実施状況

居宅サービス計画の作成

居宅サービス計画の作成に当たっては、相談者宅を訪問し本人とご家族のニーズを把握すると共に、サービス担当者会議を適宜開催し、各事業所や関係機関とも同意を得て計画内容を決定した。

居宅サービスの適切な実施

サービスの実施後、再検討が必要な場合は再課題分析会議を行い、サービスの内容変更を実施した。

ご利用者からの相談・苦情への適切な対応

提供した支援計画に受けた相談に対して、また計画以前の問合せなどに対しても他の居宅支援事業所や行政などに調整を図り、適切に対処した。

認定調査及び介護予防支援業務の実施

行政及び包括支援センターの委託等について、積極的に協力した。

多種多様なニーズに応えるための、充実したケアマネジメント

内外の研修会等へ積極的に参加し資質の向上を図った。

南丹市地域ケア会議に出席し、地域のニーズおよびサービス提供事業所等、関係機関の状況を把握し、連携を取ることができた。

今年度の介護報酬の改定に基づき、適切な加算、報酬に即した事業展開を実施し、利用者の生活の質の向上と、自立した在宅生活への援助を行った

(9) 給食関係

平成 24 年度は大きく設備の環境を整えた他、次の事業を行った。

下膳と配膳のスペースが取れるように、衛生的に作業効率が図れるように洗浄器の一部改修を行った。

冷温配膳車を年次計画に基づき、1 年目として 3 台の冷温配膳車の入れ替えを行った。機能的にも充実し、ご利用者様には適温適時の食事が安全でより美味しい食事の提供ができた。2 年目には、4 台の配膳車入れ替えを予定しており、より充実した食事内容の提供を図っていききたい。

もう 1 人管理栄養士の人材が確保でき、各部署のニーズを把握するため、給食委託会社と一緒にご利用者との懇談会に参加し直接お話を伺う機会や各部署での給食委員会を開催した。

ソフト食(ゼリー食)の提供を昼食と夕食の提供にひろげ、見た目にも食欲が増すように工夫した。

部署ごとにあった食事内容、選択食の充実、手作りおやつの充実が図れた。

今年度において、また、その中でも、次年度においても、より良い食事が提供できるよう設備面も含め実施できるよう取り組みたい。

3 . 平成 24 年度主要行事

月	行 事
4	9~18 日花見&ドライブ・23 日消火器訓練・27 日南丹看護専門学校実習始まる(通年)
5	1 日カラオケサークル道交流訪問・2 日ロビー正面に和みの像設置・8 日花祭り・9 日八木民児協交流訪問・聖カタリナ高生実習はじまる(通年)・19 日ご利用者レントゲン検診
6	1 日農芸高校フラワーキャラバン・2 日山里民謡グループ交流訪問・17 日子ども将棋交流会・18 日南丹病院研修医実習はじまる・22 日水無月祭・6 月~ご利用者全マット洗浄・緊急ショートステイ事前登録制度スタート
7	7 日七夕祭・11 日普通救命講習・18 日ミュージックパーク交流訪問・20 日フラダンス教室交流訪問・26 日園部中高合唱部交流訪問・29 日子ども将棋交流会
8	3・11 日南丹市民児協福祉体験教室・6 日聖カタリナ高福祉科教員実習開始・21 日納涼夏祭り・25 日栃ノ木グループ交流訪問・31 日お盆法要
9	1 日防災訓練&非常招集訓練・12 日普通救命講習・15 日敬老祝賀会・15 日日吉オカリナグループ交流訪問・24 日秋彼岸法要
10	4 日福祉体験人材育成受入・5 日大正琴グループ訪問交流・14 日内林厄神秋神輿訪問・16 日長生園運動会・21 日子ども将棋交流会・22 日府立医大研修医実習はじまる・24 日グループホーム増改築工事着工
11	上旬インフルエンザ予防接種・14 日園部中学校勤労体験学習始まる・15 日創立記念日・22 日オカリナグループ宙交流訪問・22 日普通救命講習・30 日農芸高校フラワーキャラバン

1 2	1 日山里民謡グループ交流訪問・12 日衆議院議員選挙不在者投票・25 日クリスマス忘年会・大石直弥クリスマスコンサート・28 日年末大掃除 & 餅つき大会
1	1 日新年祝賀会・15 日とんど
2	2 日節分祭・7 日田中歯科医院訪問歯科検診, 診療はじまる・20 日グループホーム増築棟竣工
3	2 日ひな祭・4 日秋彼岸法要・15 日フルート演奏会・29 日総合避難訓練

4 . 平成 24 年度 施設内外職員研修報告

月	研 修 内 容	月	研 修 内 容
4		10	OJT リーダー研修・安全運転管理者講習・摂食嚥下障害研修・施設職員研修・摂食嚥下障害研修・医療福祉ネットワーク講座・認知症介護実践者研修・初任者区キャリアアップ研修・南丹在宅医療研修・南丹リハビリ支援研修・障害者就労支援研修
5	地域ケアマネ研修		
6	認知症介護実践者研修・緩和ケア研修会・老人福祉施設研修・栄養管理緩和ケア研修・キャラバンメイト養成研修・普通救命講習・園内ケアマネ研修		
7	介護支援専門員更新研修・摂食嚥下障害研修・普通救命講習・職員マナー研修・主任介護支援専門員研修・南丹管理栄養士研修・民間社会福祉施設長研修	11	府社協初任者研修・OJT リーダー研修・普通救命講習・感染症予防リーダー研修・南丹栄養士研修・介護福祉士模擬試験
		12	感染症予防リーダー研修・介護福祉士模擬試験・医療介護連携研修会・玉掛技術講習会
8	主任介護支援専門員研修・職員マナー研修・甲種防火管理新規講習・認知症介護実践者研修・OJT リーダー研修・認知症介護実践者研修	1	新春経済講演会・たん吸引フォローアップ研修・在宅緩和ケア研修・感染症予防リーダー研修・普通救命講習・高齢者虐待防止研修
		2	ケアハウス経営セミナー・介護支援専門員実務研修・新任職員研修・認知症対応事業管理者研修・南丹栄養士研修・医療福祉ネットワーク研修・地域ケア研修・南丹在宅医療地域連携研修・介護福祉士実技試験対策講習
9	介護支援専門員更新研修・メンタルヘルス研修・消防救急フォーラム・普通救命講習・読売京都文化ルーム研修・介護支援専門員模擬試験・自衛消防隊指導者研修・南丹通所サービス部会研修・危険物安全協会研修・府看護協会研修・看取り介護研修・南丹病院在宅緩和ケア研究会・	3	共済会事務説明会・認知症キャラバンメイトスキルアップ研修・介護支援専門員実務研修・南丹ケアマネ研修・管理栄養士研修・介護福祉士模擬試験・介護福祉士実技試験対策講習